

### 1. 参考文献

- ・東短リサーチ(株)編、『新・東京マネー・マーケット』有斐閣、2002年
- ・財務省ホームページの国際局のパート (<http://www.mof.go.jp/jouhou/kokkin/frame.html>)

### 2. 変動為替相場制度

- ・円と米・ドルの間は1973年2月から**変動相場制度**(それまでは固定相場：1ドル=360円)  
将来の為替相場は現時点では分からないため、対外取引は為替レートの変動リスクを伴う  
米・ドルと中国・元など、現在でも**固定相場制度**の事例も。他方、欧州大陸では単一通貨。
- ・為替平衡操作(介入)を行うことも：財務省が1991年5月以降の実施日・金額・売買通貨を公表  
例：円売りドル買い介入　FB発行で調達した円を売りドルを買う　日本の外貨準備
- ・主にインターバンクの市場　対顧客取引の市場(TTS<電信売>とTTB<電信買>)  
いずれもOTC取引(取引所は存在しない)
- ・銀行間などの市場では、外為ブローカー経由の取引やスクリーン取引が行われる  
色々な情報が市場参加者の相場観に影響：各種経済指標、内外金利観、要人発言など。

### 3. 直物取引 (spot transaction)

- ・現時点で円と外貨を交換する取引の交換レート：外貨の需要と供給によって決まる
- ・実需(輸出入や資本取引<直接投資や証券投資>) + 投機(安く買って高く売る)  
投機について2つの見方：為替レートを安定させる　為替レートを不安定にする
- ・1ドル 円という表現が一般的。　が小さくなれば円高、大きくなれば円安と呼ばれる  
逆算して、1円で何ドル買えるかが通貨の価値を意味する。

### 4. 先物取引 (outright forward transaction)

- ・将来時点での外貨との交換レートを予め定める取引のこと
- ・為替レート変動に伴うリスクをヘッジできる：「先物カバー」や「為替予約」ということも  
例：受注後に生産して納品後に外貨を受取る輸出品の場合、円建ての手取額を確定できる
- ・先物価格と直物価格が両通貨の金利差以上に開いた場合、**裁定取引**が可能になる  
例：「先物の期間日本で運用する取引 = ドルに交換 + 米国で同じ期間運用 + 円に戻す取引」  
となる筈　金利が低い通貨は、先物価格が直物価格よりも通貨高となる

$$(1 + \text{円の金利}) = (1 + \text{ドルの金利}) \times \text{先物レート} / \text{直物レート}$$

### 5. スワップ取引 (swap transaction)

- ・現時点での外貨の売買と、将来時点での外貨の反対売買を組み合わせた取引のこと  
例えば、ドル直物買いと同額のドル先物売りの組み合わせ：為替レートの変動リスクなし
- ・スワップ取引のレートには、取引金融機関の信用度が反映されることもある　マクスの調達金利
- ・別のスワップ取引(通貨スワップや金利スワップ)もあるので、注意する必要  
注) 通貨スワップの例：ドル建ての債務と円建ての債務の交換  
金利スワップの例：変動金利の債務と固定金利の債務の交換

以上